

平成30年度病害虫発生予報第1号

平成30年 4月 3日
愛 知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもちの発生量は平年並	±
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない ムギの生育は平年並 4月の日照時間は平年並	± ± ±
	赤さび病	やや多い	県全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない ムギの生育は平年並 4月の気温は高い	± ± +
	赤かび病	平年並	県全域	4月の降水量はほぼ平年並 ムギの生育は平年並	± ±

・防除対策

[コムギ・赤さび病]

生育が早く葉色の濃い場所や過繁茂の場所を中心にほ場を見回り、発生を認めたら、ワークアップフロアブル、アミスター20フロアブルなどで防除しましょう。また、開花期には、必ず薬剤防除を行いましょう。

・留意事項

越冬世代のヒメトビウンカにおけるイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率は、県平均で2.1%（前年6.7%）で、早期栽培水稻において多発生であった昨年に比べ低くなっていますが、引き続き注意が必要です。生育初期のイネ縞葉枯病ウイルス感染を防ぐため、移植栽培では育苗箱施薬、不耕起V溝直播栽培では殺虫剤の種子塗抹でヒメトビウンカを防除しましょう。

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう（例：60℃、10分）。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下だと効果が劣るので注意しましょう。消毒後は病原菌による汚染がないように管理しましょう。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）やイネ苗立枯細菌病は、急激な温度差やかん水むらなどの環境変化が発生を助長するので、育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	越年発病葉率はやや高い 4月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	ミカンハダニ	多い	県全域	3月上旬の発生量は多い 4月の気温は高い	＋ ＋
ナシ	赤星病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒星病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	前年秋期の発生量はやや少ない 4月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	前年夏の発生量はやや少ない	－
ブドウ	黒とう病	やや少ない	県全域	前年の発生量はやや少ない 4月の降水量はほぼ平年並	－ ±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬成虫量はやや多い	＋

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

デランフロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

トモノールS、ハーベストオイルなどで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

りん片発病芽や新梢基部病斑は見つけ次第除去し、スコア顆粒水和剤やチオノックフロアブルなどで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

本日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照して下さい。

・留意事項

落葉果樹の生育は、4月3日現在、長久手市において、モモ（白鳳）、ナシ（豊水）は満開日を過ぎており、昨年よりも早い状況です。生育ステージに合わせた適期防除を心がけましょう。

フェロモントラップの誘殺状況から、ナシヒメシクイ越冬世代の成虫発生時期は早いと予測します。成虫はモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させます。フェロモントラップの誘殺状況を参考に適期を逃さないように防除しましょう。

フジコナカイガラムシの発生が多かったカキほ場では、新梢展葉期にアプロード水和剤などで防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
ナス (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	すすかび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間はほぼ平年並	－ ±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間はほぼ平年並	－ ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない	－
	ハダニ類	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±

・留意事項

キャベツでは、コナガが発生しているほ場があります。発生ほ場は速やかに防除しましょう。また、収穫残さは本種の発生源になるので、収穫終了後は残さを速やかにすき込みましょう。

ナスでは、うどんこ病の発生量がやや多い状況です。発生しているほ場では防除しましょう。灰色かび病、すすかび病が多発しているほ場があります。ほ場での発生状況に注意し、適切に防除しましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生ほ場が増加しており、多発しているほ場もあります。多発生すると防除が困難になるので、早めに防除しましょう。また、アザミウマ類が発生しているほ場があります。例年、発生量が増加する時期です。施設開口部や吸気口の付近など発生しやすい場所をよく観察し、発生を認めたら速やかに防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

トマトでは、気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するタバココナジラミやトマト黄化病（ToCV）を媒介するコナジラミ類が増殖しやすくなります。媒介虫の防除を徹底し、発生を防ぎましょう。ウイルス病は、伝染環を断つことが重要で

す。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して媒介虫を死滅させましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

発生量及び発生時期の基準

発生量	平年並 やや多い やや少ない 多い 少ない	平年値を中心にして40%の度数に入る幅 平年並の外側20%の度数に入る幅 同上 上記三者の外側10%の度数に入る幅 同上
発生時期	平年並 やや早い やや遅い 早い 遅い	平年値を中心にして前後2日以内 平年値より3～5日早い 平年値より3～5日遅い 平年値より6日以上早い 平年値より6日以上遅い

注) 平年値＝原則として直近10か年の平均値とする。

フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方气象台3月29日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間のはじめは気温がかなり高い見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%